農　大　だより

令和5（2023）年度版

令和５年 12 月 26 日発行

愛知県立農業大学校

〒４４４－０８０２岡崎市美合町字並松１－２
Tel：0564-51-1601　Fax：0564-51-4831
E-mail　noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ：https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/

CONTENTS

1　専攻紹介　養豚・養鶏専攻
2　意見発表会の開催
3　農大祭の開催
4　専攻トピックス
5　クラブ紹介（テニス部、写真部、商人塾）
6　学生ＯＢ紹介
7　トピックス
　終業式の開催、県民公開講座（果樹の剪定）の開催、
　進路セミナーの開催、一般一次入学試験の結果

愛知県立農業大学校
公式HP

Instagram

X（旧 Twitter）

専攻紹介

養豚・養鶏専攻

養　豚

養豚専攻では、６名（１年生４名、２年生２名）の学生が、豚の交配から分娩、育成、肥育、出荷に至るまで一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。農大では、規模は小さいながらも母豚をグルーピングして分娩を集中させ、それに伴ってウィークリー化してメリハリのある作業体系としています。また、学生が中心となって、餌の発注から繁殖計画、日々の作業予定を決めることで責任感を持って飼養管理ができるようにしています。プロジェクト活動では、派遣実習や日々の管理の中で気づいた疑問点やアイデアを基に学生自らがテーマを決めて取り組んでいます。

分娩した子豚

肉豚の体重測定

人工授精

子豚の耳標装着

農大祭

育成雄豚

育成豚

母豚給餌

養　鶏

養鶏専攻は、12 名（１年生６名、２年生６名）の学生が、愛知県の特産である「卵用名古屋コーチン」を主体に、白色レグホーン、ロードアイランドレッド、アローカナ、烏骨鶏を合わせて約 2,400 羽飼養しています。育雛舎はウインドレス鶏舎、成鶏舎は開放鶏舎とウインドレス鶏舎のタイプの違う２鶏舎があり、育雛から成鶏までの飼養管理技術を一貫で学ぶことができます。また、鶏種や飼養形態による飼養管理方法の違いを学習できます。飼養管理ばかりではなく、実習販売等を通して、売り方やブランド化など販売方法についても学んでいます。

育雛鶏舎

ウインドレス鶏舎

開放鶏舎

ヒナの受け入れ

デビーク

洗卵作業

卵パック作成

実習販売

特　集

わたしたちの主張！
令和5年度意見発表会

令和５年度意見発表会を、11月14日(火)午後1時から中央教育棟大講義室において開催しました。各専攻から1名ずつ選抜された1年生8名が、全学生及び職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域や世界の農村環境、派遣実習を機会に考えたことなどについて意見を発表しました。

いずれの発表者も、発表内容はもちろんのこと、発表時間や発表態度等においても専攻職員から指導を受けて、練習を重ねていました。当日、緊張からその成果を十分発揮しきれなかった発表者もいましたが、農業に対する思いや後継者として解決したい課題、今後の農業のあるべき姿、将来設計等について熱意を持って語り、印象深い発表内容となりました。

校長を委員長とした4名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「私が目指す養豚経営」を発表した養豚・養鶏専攻の松井幸生君、優秀賞は「「米一粒、汗一粒」からの脱却」を発表した作物専攻の稲垣椋介君と「持続可能な農業を目指して」を発表した露地野菜専攻の野田実乃里さんがそれぞれ獲得し、校長から賞状ならびに副賞（後援会支援）を授与されました。

最優秀賞の松井君は、大阪府で開催される「東海・近畿ブロック農業大学校意見発表会」（1月18日開催予定）に本校代表として参加しますが、さらにその先の全国大会（2月7日開催予定）への出場も目指します。

最優秀賞

「私が目指す養豚経営」

養豚・養鶏専攻1年
松井　幸生

養豚への興味を持つきっかけ

小さい頃から動物好きで近くの酪農家さんのところに行っては牛と触れ合っていた。中学生のある日、「豚は、身動きの取れない場所で飼われ一生を終えていく。貴方達はこのような実態を無視するのでしょうか？」といった少し過激な内容の動画に私は釘付けになり、そこから豚に興味がわき、やがてそれは熱意に変わり、いつしか自分で農場を経営し、今までのような狭い部屋で豚を飼育するのではなく、豚がのびのびと快適に過ごすことができるような養豚経営をしたいと思うようになった。

新たな視点での養豚

農業大学校に入学してからは、人工授精や肥育技術など幅広く養豚を学ぶことができた。また、実習でお世話になった系統豚を生産している畜産総合センターでは徹底した衛生管理や種豚（肉豚を作るための豚）生産技術、豚房の構造によるメリットやデメリットなど施設面まで今まで勉強してきたこととは別の視点から豚を学ぶことができた。派遣実習では、経営者の心得や養豚経営について学ぶことができ、養豚全般に対する視野が広がるよい機会となった。

養豚経営を目指して

新しく養豚を経営したいというのは現実的ではないが、自分の農場を持ち、豚を育て、食べる人に美味しいと言ってもらえるようなお肉を作りたい。挫けずに足掻き、自分の力で切り拓いて夢を叶えていきたい。

優秀賞

「「米一粒、汗一粒」からの脱却」

作物専攻1年
稲垣　椋介

農業大学校での学び

派遣実習では、大規模農業を自分自身の目で見ることができた。

派遣農家と話す中で、興味があった農業従事者が減っている問題について質問したところ、「農業は昔の大変なイメージがある。これからはスマート農業を取り入れたかっこいい農業を目指してイメージを一新させる必要がある。」との意見を聞いた。スマート農業を取り入れたかっこいい農業を実践することで、若者も農業に興味を持ち、やってみたいと思うようになるはずだと考えた。

海外派遣研修への興味

農業大学校での経験から、将来のためにスマート農業や大規模農業を学びたいという思いが強くなっていった。そして、海外派遣研修の存在を知った。１年半程度、様々な国の農業に関係する若者たちが集まり、海外で最先端の農業を学ぶことができるその研修に胸が震えた。卒業後は海外研修で「大規模経営にはどのような考え方が必要なのか？」そして「最新のスマート農業」について学びたい。

夢である農家レストランの実現

私には「農家レストラン」を開く夢がある。

農家レストランでは地域の農家が育てたものだけを使い、食料自給率 100%を目指したい。

そして、卒業後に就農した野菜や果樹、畜産農家の友人と連携し、皆が育成した農畜産物でつくった料理を提供したい。

優秀賞

「持続可能な農業を目指して」

露地野菜専攻1年
野田 実乃里

持続可能な農業とは何なのか

持続可能な農業とは「世代交代のできる農業」のことである。今の日本の農業は少子高齢化、耕作放棄地等など多くの課題を抱えている。農家の平均年齢は 67.7 歳で今後数十年間、農業をどのくらいの人が続けていけるのか。農業は家族経営が多く、生活と密接につながっている。農業で生活でき、子どもが農業を継ぎやすい制度作りが大切である。

受け継いでいくということ

私は高校時代、ユネスコクラブ（マーケティング部門）という、養蜂や商品開発、地元企業と協働でイベントを行う部活動を行っていた。ユネスコクラブでは子どもたちにどのようにミツバチの大切さや食の大切さを伝えるかということで、絵本の作成を行った。小さいころに読んだ絵本は心に残りやすい。その時に着目していたのは教育で、これからの社会を担う若い世代に少しでも知ってもらいたいという思いからだった。まずは興味を持ってもらうところから。その後実際に体験したりして、その体験が楽しかった、または大変だったとしても考えてもらえたことに価値がある。

将来の目標

私はまず、農業関連の職に就き、社会をもっと知りたい。そこで知見を深め、実家の跡を継いだとき新しい様々な視点で考えられる農家になりたい。そして持続可能な農業に少しでも貢献をするために、情報を取り入れ発信し、農業の魅力を多くの人に知ってもらいたい。

「派遣実習を経て見えてきたもの」

鉢物・緑花木専攻1年
山口 颯一

私の実家は、主にシクラメンを栽培する鉢物農家で、私は父のような農業者になり、実家を継ぐことを目標にしている。一方で、父から聞く話によると、産業としての将来の見通しは明るくなく、実家や実家が所属する組合の現状に危機感があった。

農家派遣実習を通して、植物の知識だけではなく、雇用環境の改善や流通ルートなどを学び、全てを把握しなければ適切な農業経営はできないことがわかり、学ぶべき事を知ることが出来た。

私が今後、実家を継ぐためには経営の多角化が一つの手段だと考えている。農大での実習でそのヒントを探していきたい。

「農産物輸入の未来」

切花専攻1年
細野 新太

私は小さい頃から食料自給率という言葉は聞かされ続けており、日本の食料安全保障に関することには興味があった。その後、農業高校に入り、たくさんのことを学ぶにつれ、日本には食料安全に関する問題があることを知り、「食料輸入」に目をつけるようになった。

しかし、農産物輸入には戦争による物価高、気候変動やバイオガス燃料の需要の高まりによる砂糖などの価格高騰など、様々な課題がある。

このように国内だけではなく海外からの輸入においても安全保障上の課題は沢山あるため、私は現地の農家に日本ではどんな物に需要があるのか等、現地の人との交流を通して日本の食料安全保障を守る仕事に就きたい。

「思い出と将来の展望」

普通科高校出身で非農家である自分が農業の道を歩いているのは、宮崎の祖父母の存在だった。農業を認識する時間があったことで、今、農大にいる。

高校２年「これは面白そうだ、これなら自分から学べそうだ」という直感だけで農業に片足を突っ込み、農大に入って半年。農業の道に進んだことを後悔したことは一度もない。ここでは作業一つ一つに、その後の管理を考えた理屈があり、知ることは新鮮で楽しく農業の奥深さにのめり込む。

農業を継ぎたいと言ったら喜んでくれた祖父母。勉強中の「ブドウ」「カフェ」「農家民宿」やりたいことはまだまだある。農業体験や収穫体験を通して楽しさや魅力を知ってもらい、仲間を増やすことも私の夢の一つ。

果樹専攻1年
首藤 理杏

「農業に対する思いや将来の展望」

私の家はミニトマト農家で、いつかは継ぐことを考えている。農家になる上で人脈が大切であると思ったことも農大に進学した理由もその一つ。

現在の農業の課題である担い手不足は、農業に興味がある人が少ないことや就農しても農業経営が軌道に乗らず数年で離農してしまうケースがあるからだと考えた。こうした問題を受け、私は将来農業をする上で、私のハウスで農作業や収穫体験をしてもらう機会を設け、子どもたちに農業に興味を持ってもらい、農業関係者を増やしたい。経営不振による離農者を減らすためには部会等の活動に誘ったり、ほ場に顔を出したりしてコミュニケーションの機会を確保していきたい。

農業経営にはやはり人脈作りが不可欠。農大の友人やこれからの出会いを大切にしていきたい。

施設野菜専攻1年
中川 弘貴

「可愛いは正義」

愛知農大に入学し、初めて子牛を間近で見た。「牛ってかわいすぎる！」と、すっかり牛の虜になった。多くの人に牛のかわいさを知ってもらうため、気軽に牛に会いに行ける牧場を作りたい。酪農体験を通じて牛にたくさん触れてもらい、酪農家のリアルな姿も見せたい。また、アニマルウェルフェアにも配慮し、派遣実習で学んだ山地酪農を参考にした放牧地を作り、牛たちができるだけ幸せに過ごせるような設備を整えたい。人も牛も楽しめる牧場を作り、牛のかわいさと酪農という職業の魅力を伝え、将来酪農に携わる仲間を増やしていきたい。

かわいいだけでは酪農なんてやっていけないという人もいるかもしれないが、牛に触った感動とときめきを忘れず、「かわいいは正義」をモットーに酪農を続けていきたい。

酪農専攻1年
中村 花和子

審査講評

校長 石橋 良洋

各専攻を代表した８名の意見を聴く、大変有意義な発表会となりました。

最優秀賞の松井さん（養豚・養鶏専攻）は、養豚に興味を持ったきっかけやこれまでに学んだことや体験したことを踏まえ、養豚を自分の仕事にしたいという決意を熱く発表したことが評価されました。

優秀賞の稲垣さん（作物専攻）は、実家の稲麦大豆経営を継ぐことを決意し、スマート農業や六次産業の導入により若者が関わることが出来る農家を目指したいという思いを述べてくれました。

同じく優秀賞の野田さん（露地野菜専攻）は、持続可能な農業を世代交代が出来る農業と定義し、自分自身も農業について学び、努力していきたいという思いを述べてくれました。

惜しくも、賞に入らなかった発表も、それぞれ自身の経験を通じて感じたこと、農業がおかれた状況や環境を踏まえた、個性豊かで前向きな意見でした。

今後、学生諸君が自分の意見、考えを持って学校生活をより豊かにして欲しいと思います。

特　集

「農大祭2023」を開催！

12 月 2 日（土）午前 9 時から午後 1 時まで、「農を感じろ！大ナミックに！！祭高の一日を！！！～農！大！祭！～」をテーマに「農大祭 2023」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、岡崎のアメダス（本校内に設置）の正午の気温が 10.5℃と風もなく穏やかな日となりました。午前 8 時 30 分の受付開始とともに、お目当てのブースや整理券を求めて来場される方がたくさんお見えになり、9 時の販売開始時には多くのブースで既に長い行列になっていました。来場者は、最終的に昨年の 2,000 名を大きく超え、約 2,500 名の方々に来場いただきました。

今年も、来場者の皆さんの笑顔があふれる農大祭となりました。また、すべてやり終えた学生たちの充実した表情がとても印象的でした。

来賓、協賛・出展団体、保護者、来場者等、皆様の多大な御協力により大盛況のうちに終わることが出来ました。ありがとうございました。

農大専攻直売ブース

学生が丹精込めて育てた農畜産物の直売ブースは毎年大変好評です。体育館では切花専攻のキクやバラ、鉢物・緑花木専攻のシンビジウムやポインセチア等で埋め尽くされました。

テントブースでも、ハクサイやキャベツ、トマト、ナスなどの野菜を始め、養豚・養鶏専攻の名古屋コーチンや烏骨鶏の鶏卵、作物専攻の米等を買い求める姿が見られ、両手に抱えきれないほどの多くの農産物を持った来場者であふれていました。また、果樹専攻では、ナシやカキなどの果物のほか、テレビでも紹介され、「世界マーマレードアワード in Japan」で入賞を果たした夕焼けマーマレードも個数限定で販売され、即完売となっていました。

農大専攻食品バザーブース

食品バザーでは、農大で穫れた農作物を使用した、五平餅や豚汁、牛串、焼き芋ブリュレ、プリンなどたくさんの美味しいメニューが並び、来場者のお腹を満たしていました。

後援会提供ブース

後援会の提供品ブースでは、学生の保護者から提供いただいた野菜や果物などを、隣のブースでは、協賛団体提供の名古屋コーチンの卵を使ったお菓子やしいたけ、うずら卵、牛乳、豚肉、サツマイモプリン、リンゴ、大葉などを後援会の皆様の協力を得て販売し、大変好評でした。

協賛団体・企業等の出店ブース

協賛団体・企業等の出店ブースでは、計７団体の出展をいただき、お茶や蒲郡みかん、はちみつ、珈琲などの販売や、農業機械の展示販売や昔の発動機の実演をしていただきました。

さらに農大と連携協定を結んでいる岡崎市からは岡崎ぬかたの産品の販売を行うとともに、みあい特別支援学校からは生徒さんの作品を展示しました。

専攻紹介パネル展

専攻展示室では、各専攻案内や学生の研究発表の成果をパネル展示するとともに写真部の活動成果の展示も行いました。

茶道部による農大茶席

茶道部による農大茶席では、たくさんの方が本格的な茶道を体験し、お茶と和菓子を堪能しつつ、全国有数の生産量を誇る愛知の抹茶と伝統文化である茶道への興味を持っていただけました。

農大キャンパスツアー

２回実施した農大キャンパスツアーには、併せて７６名の参加者があり、普段は見ていただけない圃場や牛舎、トラクター等を見学して、農業や農大への理解を深めていただきました。

後夜祭

今年は農大祭終了後に学生会主催の後夜祭が実施されました。軽音楽部の演奏を皮切りに、キャンプファイヤーが実施され、たき火を囲んで花火や障害物競争などの演目を参加者全員が全力で楽しんでいました。

専　攻 トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

（注）カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	7（2）	5（1）	9（2）	15（5）	14（7）	15（3）	15（6）	10（3）	90（29）
2年	3（1）	7（2）	5（1）	10（0）	15（7）	13（3）	9（6）	8（4）	70（24）
計	10（3）	12（3）	14（3）	25（5）	29（14）	28（6）	24（12）	18（7）	160（53）

黒毛和種の赤ちゃんが生まれました！

１２月５日に黒毛和種の赤ちゃんが生まれました。農大ではホルスタイン種・ジャージー種・交雑種・黒毛和種の４種類の牛がいます。黒毛和種の分娩は約１年ぶり、１年生にとっては初めてのことでした。

心配しながらみんなで見守っていましたが、産んだおかあさん「よしの」はベテランママ、すんなりと無事に雄の赤ちゃんを産んでくれました。名前は「隼」と決まりました。名前の通りのびのび育ってほしいです。

～子豚がすくすく成長しています～

豚舎改修工事のために繁殖制限したため、今年度初めて１１月中旬に分娩がありました。

今年度初めて分娩するにあたり、豚舎改修工事前以上に衛生的な環境にするために、改修工事終了後には、豚房柵、床はもちろんのこと壁、天井、通路など豚舎のあらゆる場所を高温高圧洗浄機により徹底的な洗浄を行い、消毒・乾燥も何度も行ってきました。その甲斐あって子豚たちは、衛生的な環境の中すくすくと成長しており、どれほどのスピードで大きくなってくれるのか学生たちも期待で一杯です。

加工演習で大豆の加工を学ぶ!!

作物専攻では、２年生の加工演習として大豆の加工について学びました。豆腐やおからハンバーグ、おからサラダを造り、大豆からできた料理に舌鼓。豆腐はうまく固まらずに難しそうでしたが、自分たちで作った豆腐はとてもおいしく、市販のものとは違い大豆の味がしっかりと感じられる味わいでした。その後は味噌造りも行い、来年使用する味噌の仕込みも行いました。来年の出来が楽しみです。

校外学習で鳥獣被害対策を学ぶ♪

果樹専攻では、校外学習として、11 月 21 日に岡崎市の鳥獣害対策に取り組む猟友会員を訪問しました。1 件目は夏山町でわなによる捕獲活動を行っている小出氏に、箱わなでの群れごと捕獲、くくりわなでの安全な止め刺し方法の他、計画的捕獲である夏山メソッドについて説明をしていただきました。2 件目は、小丸町で竹檻による捕獲活動をしている成瀬氏に、竹檻の現物を見せていただきました。成瀬氏は、竹檻によって年間 100 頭の加害獣の捕獲に成功しており、自然由来のものを使っているため捕獲しやすいこと、竹はシカにツノとぎされないため、わなの材料に適していること等、竹檻の魅力を熱心に説明していただきました。

学生は積極的に質問をしており、有意義な研修となりました♪

冬の花に囲まれて～ 農大祭は大盛況！！

12 月 2 日(土)に農大祭が開催されました。鉢緑専攻では、毎年楽しみにしているお客様や初めて農大祭を訪れたお客様へ向けて、真心込めて育てたシクラメンや観葉植物、洋ランや花木類を販売しました。

学生は、自分で育てた植物の魅力を一生懸命伝え、ほとんどの花が完売するほどの盛況ぶりで、とても充実した様子でした！！

Cut Flower
切　花

農大祭のリースの裏話？

今年度の農大祭では切花専攻のコーナーでリースを販売していましたが、実は、あのリースは果樹専攻と切花専攻で共同製作したものでした。

リースの土台には果樹専攻で栽培しているブドウのツル、飾りには切花専攻で作ったドライフラワーを使用し、組み立ては両専攻の学生が協力して行いました。飾りを固定するのが難しくて苦戦する様子も見られたものの、個性あふれるリースを完成させることができました。

現在は、飾りの固定方法を見直したり、見た目をより豪華にするなど、改良版の構想を練っています。実習販売等でお披露目できればと思っています。

Vegetables Grown in a Greenhouse
施設野菜

ミニトマトの新作「プチぷよ」「ほれまる」で高糖度ミニトマトを目指す！

施設野菜専攻ではミニトマトの高糖度化を目指して栽培していますが、皮が硬く口に残りやすいという課題がありました。そこで、品種選定を目的に、今年度は「プチぷよ」と「ほれまる」という品種を試験栽培しています。

「プチぷよ」は皮が薄くてさくらんぼのような食感で甘さと酸味のバランスがよいのが特徴です。

「ほれまる」は果肉がしっかりしていて食べ応えがあり、ほどよい酸味と濃厚な甘みが特徴です。

品種の持つ特徴を生かして、これまでの課題を改善し、農大ミニトマトの評判を上げていきたいです！

Open-air Vegetables
露地野菜

校外学習で出荷した野菜の流通先について学ぶ！

12 月 7 日校外学習で岡崎市内にある、愛知中央青果岡崎市場と岡崎市東部学校給食センターを訪れました。

出荷後の野菜の流通ということで愛知中央青果岡崎市場では野菜が販売される様子や、求められる野菜について学びました。

また、市場を通した野菜の行き先として給食センターも見学し、給食用の野菜の規格や、どのような過程を経て野菜が加工されているのか学びました。普段は箱に詰めて終わりの野菜ですが、今回はその先について学ぶことができました。

※　各専攻の様子は、農大のインスタグラム、ツイッターで情報発信しています。

学生紹介

学生クラブ紹介

農業商人塾

部 員 数　８名
活動日時　水曜日
　　18:00～20:00
活動場所　大教室

　農産物流通に関する有識者を講師として招き、その手法を参考に、自らが考える新たな農産物流通の形を考える活動を行っています。農業の抱える課題に対して、私たちは新たな創造をし、改善に向けて取り組みます。農業はおもしろい。明るい未来がある！

写真部

展示作品の作成

部 員 数　１２名
活動日時　不定期随時
活動場所　学校行事（体育祭、東近学生スポーツ大会、収穫感謝祭、農大祭等）

　学校行事の写真撮影が主な活動です！撮った写真は農大だよりや学校の SNS に載ることも！
　写真部所有のカメラがあるので「一眼レフを持っていないけど使ってみたい！」という方も大歓迎です！
　写真やカメラが好きな人はぜひ写真部へ！

学生紹介

学生クラブ紹介

テニス部

部 員 数　４名
活動日時　不定期
　　17:00～18:00
活動場所　青年の家テニスコート

楽しくゆるくテニスをしています！5 月頃に開催される東海近畿スポーツ大会の競技種目になっているので、他県の選手と試合することができます！テニス未経験でも大歓迎です！

ＯＢ紹介

農家になって頑張っている農大学生ＯＢ

2016 年度農大果樹専攻卒業生

農大卒業後第三者継承での新規就農

ぶどう屋かとう 代表 加藤洸太郎さん　年齢 27 歳　**＜就農 7 年目、就農地：知多郡東浦町内＞**

① 栽培品目：ブドウ 70ａ、ミカン 40ａ、② 労働力：自家１人、パート２人、地主

●ブドウ農家で独立自営就農した理由は
　非農家であるが、農業高校から農業大学校の果樹専攻に入学。
　農家派遣実習先(イチジク農家)から独立自営就農を後押しされ、担い手不足だからリタイヤする果樹園を引き継いで経営開始できると思い決意。ナシやモモは傷などの状態により１玉が廃棄となるが、ブドウは１房単位なので、１房の粒が傷などで少なくなっても販売できると考え、ブドウを選定。

●就農後に苦労したことは
　農大の先生からリタイヤ予定の農家を紹介され、その農家で栽培技術を学びながら経営を引き継ぎ、農大卒業後に就農。就農後は、①聞いていたほど収入があがらない、②直売で全量売り切るだけの集客ができなかった、③自己資金はない上、融資は実績がなく借りられなかったこと。

●就農して良かったことは
　自由に楽しく働けること。

●現在研修中の皆さんへ
　農地は、人に聞いて良い条件のところを選んでください。

トピックス

終業式を行いました

12 月 15 日(金)に終業式を行いました。

石橋校長からは、今学期を振り返り、１年生の農家派遣実習、収穫感謝祭や農大祭などの大きな行事を積極的かつ円滑に実施できたことは、学生の行動力やチームワーク、自主性の賜物であり、これらの経験を今後に活かしてほしい。また、１年生は来年度入学する新入生に対して先輩として指導できるように取組み、２年生には、卒業後社会人としての生活が待っており、残り一日一日を仲間とともに大切に過ごしてほしい。さらに、冬休み中は健康や交通事故に気を付け、常識と節度ある行動を心掛けるように、との講話がありました。

新年は１月 10 日から始まり、２年生の学生生活は残り２か月になります。

県民公開講座で「果樹の剪定講習会」を開催しました

「家庭果樹の剪定に必要な知識の習得」をテーマに、県民の皆様を対象とした県民公開講座を 12 月 6 日(水)に開催し、25 名の参加がありました。講師には学識経験者の都築壽男氏をお招きし、講義と剪定の模範実技を行いました。

講義では、おいしい果実のならせ方や病害虫防除のポイント等について、模範実技では、実際にカキの栽培ほ場に移動して、その剪定のポイントやコツを学びました。

参加者からは、多くの質問が出るなど、真剣さや熱意が感じられました。研修後に実施したアンケートでは全員から参考になったと高い評価をいただきました。

第3回進路セミナーを開催しました

12 月 14 日(木)に１年生を対象とした第３回進路セミナーを開催しました。今回は２年生からの就職活動等事例紹介と農業法人代表者による講演の２部構成で実施しました。

第１部では「私の就職活動の取組」と題して、雇用就農・就職・進学・研修予定の２年生８名から自らの取組や体験談を紹介してもらった後、あらかじめ用意していた１年生からの質問に答えてもらう形式で進めました。２年生からは「就活は早めに始めるべき」、「インターンシップには積極的に参加するべき」、「開始時間の 30 分前には着くように」など貴重なアドバイスがありました。

また、第２部は「農業法人が求める新入社員の資質と能力」と題して、大口町で水田作・露地野菜の生産、直売店舗での販売を展開している服部農園（有）の取締役、服部都史子さんから御講演をいただきました。服部さんからは「社員からの提案で、できることから職場の改善を続けている」等改善の取組についての紹介や、就活を始める１年生に向けて「自分の思う弱みは他人からは強みに映ることもある」等自己分析についてのアドバイスがありました。

１部、２部を通して、受講した１年生にとって大変有意義なセミナーとなりました。

令和６年度入学生　一般一次試験の結果について

12 月 8 日(金)、一般一次試験（小論文、数学Ⅰ、面接）を行いました。受付では多くの受験生の緊張する姿が窺えましたが、面接では農業に対する夢や希望を堂々と答えてくれました。合格発表は 12 月 20 日(水)に行い 27 名が合格、先に実施した推薦入試と合わせて合格者は 85 名となりました。

一般二次試験は令和６年２月 13 日(火)に行います。募集期間は令和６年１月 10 日(水)から１月 24 日(水)、募集する専攻は、「鉢物・緑花木専攻」、「切花専攻」、「酪農専攻」及び「養豚・養鶏専攻」です。

※　詳しくは、本校ホームページをご覧ください。

★農大だよりを読んでいただきありがとうございます。
２０２４年もよろしくお願いします。良いお年を！